

編 集 後 記

厳寒—北の国の病院のことが偲ばれる。雪のトンネルをくぐって通う雪国の外来患者、雪に周囲をとざされて真暗になつた病室に病を養う人達、配水管も氷つてしまう迄に働く病院の職員、急患にかけつける為に吹雪をついて出かける医師を初めとして医療従業員の活動等々吹雪の中に苦しむ傷病者とそれと戦う献身的な人々の姿が浮んでくる。一体この人々らの不幸と努力とに同情を持つ人達がわれわれの中に何%存在するのでしょうか。東京にいて、今年は暖いといつていられる、いわゆる中央の人の何人がこの問題を切実にとり上げる同情と意志を持ち合せているのでしょうか。そういう編者も2月になつて特にこの問題に注意しなければならぬことを痛感するというのかつさだ。こゝに雪国の医療問題、病院問題、病院管理の問題——それぞれの研究をとりあげその対策が考えられねばならないと思います。医療と厳寒地——一般に寒冷の土地には文化が行渡り難い。社会保障の実施に当つてこの地方の人々の叫びを忠実に取入れなければならぬでしょうし、北海道・東北・信越・北陸地方の病院協会は率先この問題を取上げなければならぬでしょう。

何十年來問題となつておつて、いよいよ今年には解決しなければならない医療問題が山積しています。曰く、社会保障制度、医療機関整備、医薬分業問題、医薬課税、開業医制度のあり方、病院の質の向上、専門医制度、医師会の權威の確立、病院協会の結成、医育の改善、学位制度適正診察費、適正入院料の確立等々、何の問題をとり上げてても重大な問題です。然しこれらの問題も、国民の福祉、公衆衛生と国民保健の増進ということを最大目標としたならば、自ずとその行き方は一つの形にまとまつて来なければならぬものでしょう。特にこの際医師の自覚自省が望まれなければなら

ぬでしょうし、自覚自省された医師の先達こそこの問題の解決を早めることになり、亦国民福祉の為に安全なものにすることが出来るでしょう。

本誌が取扱う問題は、病院に関する問題に限られているとはいえ、医療機関の中心としての病院の問題こそ、前述の問題の総てに關聯し又そのかなめをなさざるを得ない事柄であります。正しい、民衆の、民衆による、民衆のための病院の建設に、医師は勿論のこと看護婦その他の技術員と、科学に立脚した技術と知識を活用すべきである。為政者、病院経営者、病院管理にたずさわる人達の御関心と御研究を奨ようしてやまないものです。

さて本号には前号の小林氏の病室の構造に続いて、守屋氏が総室の問題をとり上げられました。病院建築では病室の構造設備が最大の問題であり、勿論病院管理上も最大の関心事の一つです。個室と総室についてはそれぞれ長所欠点がある。勿論病院管理の最善がつくされることが出来るような経済的な余裕のある国柄であるならば、患者の Privacy を守る上には個室が最も理想的であるでしょう。然し世界的に病院管理上 economically に efficiently に病室を扱う場合には総室をより効果的としてとり上げることが結論のようであります。患者の心理的—特にわが国の今迄の患者の習慣—關係からこの問題は簡単なものではないが、大いに研究しなければならない問題であつて、守屋氏の問題の提示に続いて各方面からの御研究の発表が期待されます。

橋本寛敏編集委員が America から一月初めに帰朝されました。あちらの御見聞と日本の病院の今後の行き方についての御示唆を次号から伺えることであろうと思います。

(編集者)